

自覺よりもはるかに高いといふことである。我々はもつと、この保母に信頼して仕事を進めるならばこの困難な問題もどん／＼進

凍傷の常識

勝 又 俊 一

凍傷

これからの冬期に幼児學童を苦しめる凍傷の病理と其の豫防方法及誰れにも出来る療法とを御參考迄に述べて見たい。特に近年は榮養失調特にヅタミン不足等により本症の發生が非常に多くなつたことは今冬期に向つて一段と注意すべき季節的疾患の一つである。

凍傷發生は原因は兒童の體質により同一寒冷に同時間作用されても同程度の凍傷が起るのではなく、體質に依り著しく凍傷の程度を異にするが大體次の三程度に分けられる。

一、第一度凍傷又は紅斑性凍傷

冷氣が長く作用すると、先づ皮膚の貧血を來すが次で鬱血を來し次第に紫藍色となり、暗紅色に腫脹して來る。之を凍瘡(シモヤケ)と云ふ。これは殊に夜間あたたまると激しい癢痒(カユミ)を來す。

二、第二度凍傷又は水泡性凍傷

これは凍瘡の上に水泡を生じ破れて糜爛面或は潰瘍を形成し、

展させる事の出来る事を信じて疑はない。(十九、十二、一)

(筆者は愛育會研究所員、戸越保育所長)

膿汁を出し或は痂皮を附着する。

三、第三度凍傷又は壞疽性凍傷

これは強度の寒冷が作用し無感覺となり、局所の血行停止を來し暗褐色の壞疽部を生じ幸ひに經過すれば局所脱落を來し時には不幸死に至ることがある。一般には極寒地に居住する者、冬の登山、スキー等に行く時は特に注意すべきことである。

凍傷は手指、足趾、耳翼等に多く發生し、幼児、年少者は大人よりも罹り易く、特に貧血性者、心力弱者、腺病質の者、脚氣になり易き者は特に注意しないと凍傷を起す故に斯様な體質の者は平生より肝油、鐵劑、ヅタミン劑を與へて勉めて強壯ならしめ冬期に向へば、手袋、足袋を用ひて温包し、皮膚は常に乾燥に保つ様注意する。

療法 不幸第一度の凍傷發生したならば家庭療法としては毎日

一—二回局所の温浴を行ふ。時間は一〇分前後特にこの湯を「トウガラシ」を水一升到二本程度入れて煮した湯で行ひ浴湯中能く摩擦するのは頗る有效な方法でこの方法で凍傷を少くとも第二度

に進めない様になることが重要である。第二度となると今日有效なる薬劑の入手困難で且つ家庭療法も困難である故にぜひこの方法をすゝめたい。其他簡單には四五倍の沃度丁幾、ルゴール氏液カンフル丁幾を一日三—四回塗布する特に前記の温浴後に行ふと更によい。

第二度、三度凍傷は醫師の治療を受けるのが無難であるが、参考迄に次に處方を記して置く故、薬局にて調劑出来たら試みられたい。

第一度凍傷

ヨードチンキ 二・〇

タンニン酸 一・〇

カンフル精 二〇・〇

グリセリン 五〇・〇

右爲塗布料

第二度凍傷

硝酸銀 〇・二

ペルーパーサルム 五・〇

單軟膏 五〇・〇

右爲軟膏

第三度凍傷

カンフル 三・〇

タンニン酸 二・〇

ペルーパーサルム 一〇・〇

グリセリン 五・〇

單軟膏 五〇・〇

薄荷油 一〇・〇

カリ石鹼 二〇・〇

右爲軟膏

其他毎年冬期になると必ず凍傷の發生する者に凍傷の起る冬の始めより太陽燈、レントゲンの照射を受けると大へん豫防的に有効に作用する者もある。

寒冷が急に作用し知覺を失ひ或は失神せる者には急に温めることなく先づ雪塊或は布片を以て摩擦し徐々に温める様にするこゝが大切で、出来れば酒、コヒー等の興奮劑を與へる。以上

(筆者は勝又外科醫院長)

お願ひ

○本會へ振替にて御送金の場合、必ず振替料金拾錢を御加算下さい。

○従來は誂代として一冊につき參拾五錢だけ頂いて居りましたが、昭和十九年四月分から誂代の外に特別行爲税參錢、送料貳錢、合計四拾錢を申し受けて居りますから御諒承下さい。

昭和十九年十二月

日本幼稚園協會